三伊藤電気のアジア放浪記　3杯目
「やすらぎ探してアジア行脚は果てしなく！！」

皆さん、こんにちは。伊藤です。それともサバーイ伊藤でしょうか？今回も、いつものオジサン達とアジアをプラプラする旅日記です。今回は約3年ぶりのタイランド・バンコクです。微笑みの国であり、色々とある国でもあります。我々は、朝の中部国際空港セントレアより、タイ航空TG645便でバンコクへ。いざ6時間30分のフライト。無事にバンコク・スワンナプー空港到着。

そして、迎えに来ているガイドさんとバンコク市内へ。現地は夕方4時ぐらい。今回のホテルは繁華街の中心ぐらいにあり、大変具合が良い。ホテル名は「デァーニーホテル」。チェックインしている間に、バンコクに大変詳しいSさんが、街の両替屋で円からバーツに。それでは夕食タイム。歩いてタイ料理専門店へ。そしてビールで乾杯。色々なタイ料理を食べて満足。そしてSさんに連れられてカラオケスナックへ。そして楽しく夜は過ぎてゆく。

朝、ホテルにて朝食。このホテルは近年、日本人の宿泊者が多いらしく、和食もあり満足です。そしてロビーで、いつものガイド・チャイさんと今回の旅の打合せを済ませ、ハイエースに乗り込む。やはり、朝からムッとするくらい暑い。今回、バンコクが初めてのHさんのために、基本のメイクローン市場へ。列車が近づくと、線路上の市場テントはいっせいに場を空けるテレビでよく見るあれです。そしてバンコクといえば、ワットポー寺。涅槃仏（大仏が横に寝そべったあれです）がある寺です。そして、三島由紀夫の「暁の寺」で知られるワットアルンを見て水上マーケットなど色々見て、ビールを飲む。とりあえずチャーンビールをグビッと一杯。私は、シンハービールよりチャーンビールの方が好きで、味もシンハーより飲みやすい。そしてランチは、ガイドさんおすすめの、近所の中華飲茶ランチセットで済ませる。

ホテルに帰り、Wさんと近くにあるタイマッサージ店で1時間コース。チップも含めて、日本円で1200円ぐらい？そして夜のディナータイムは、今回楽しみにしていたザ・グランドチャオプラヤ・クルーズ。風に吹かれて夜の川を行く。首都バンコクの母なる川で、ライトアップされたワットアルンやワットプラケなどなど、クルーズ船に乗ってディナーを満喫しながら絶景を楽しみました。約2時間のナイトクルーズも終わり、ホテルへ。夜の街へ、お土産など探しに…。

そして3日目。朝よりエメラルド寺を見物するが、あまりの見物客にまいった。特に中国人が多い。マナーがまったくなっていない。私達は中国人にうんざり。怒りを持った仲間もいたぐらいである。気分を取り直し、今回の目的の一つであるナマズ釣りに向かう。目的地まで少し走る。そこは釣り堀で、すごく広い池がある。7人でリール竿2本セットを用意してもらい、釣りのガイドさん一人がエサを付けて投げ入れてくれる。そして、ヒットするまで待つ。ヒットすれば、みんなで順番にナマズなどを釣り上げる。よくハズレもあるが、うまくいくと約1mぐらいのナマズが釣れる。釣れたナマズはリリースするルールである。でもこれは、かなり楽しい。そこでは、色々な人種の人々がワイワイ、ガヤガヤ。誰かが釣り上げると、カメラで記念撮影大会。白人の人々も、我々が釣るとすぐに見に来る。和気あいあいの一日で、私はハンモックを買い、そこで昼寝をしたり、冷えたチャーンビールやコーラを飲み、軽食をつまみ食いしつつ、のんびり釣りをする。

ゆっくり一日を過ごしてホテルへ。そしてまたタイマッサージ一時間コース。急いでホテルに帰り、夕食の日本食居酒屋「なぎ屋」に向かう。店内は日本の居酒屋風で落ち着く。そして色々注文して、みんなでビールをぐびぐび。そのうち酒の種類も色々変わって、楽しく宴会も過ぎてホテルへ。部屋に戻り、そろそろ帰りの荷物まとめをしなければと思っていたのに、Wさんがまた夜の街へと誘う。みんなでぞろぞろ、色々な店を冷やかし楽しく夜の街はふけゆくのです。

そして最終日。楽しみにしていたサンデーマーケットに行く。最終日は丸一日、買い物や土産探しをすることにしていたので楽しみ。まず、革製品の好きなNさんが、またバッグや財布など色々買い込み、私はシルクのスカーフを10枚ほど買い、麦わら帽子と黒Gパンなど買う。あまりに暑いので少し休憩。皆さんはビールですが、私と3人はスイカジュース。タイではウォーターメロンジュースと言います。これが今回1番美味しいと思いました。それからWさんが何故か絵を買うと言い出し、大変大きな市場なので絵を売るエリアもあり、そこへ行くことに。5店舗ほど見て回り、やっとこれはという絵を買うことに決まり、持って帰ることにしました。しっかり梱包してもらい、それをぶら下げながらWさんぷらぷら。みんなと市場をぷらぷら。そして今回私がどうしても食べたかったマンゴーともち米にココナッツミルクをかけたスイーツ、「マンゴースティッキーライス」を屋台のオバチャンに2品注文してみんなで食べた。みんなが美味しいと喜んでくれた。そして横の屋台でアイスコーヒーを注文して、また市場を色々見て回り、みんな土産などをたくさん買い込み、市場を後にして次のデパート伊勢丹に行く。まず買い物の前に昼食を8番ラーメンで済ませ、買い物に向かう。私は「ナラヤ」という女子の好きそうな店で多く買い込み、みんなもたくさん買い物をしてホテルに戻る。

夕食はフカヒレ専門店を予約してあるので、私とWさんはタイマッサージ1時間コースに行く。いつものタイマッサージ店だからホッとする。何故か今回の旅は私が色々と計画を立てたが、詰め込み過ぎてあまりゆっくりできないようになってしまった。いつもなら2時間コースなのですが、少しばかり残念なようです。そしてフカヒレレストランでは、日本から持って来た焼酎「いいちこ」が余るのでどうしようとTさん、店に持って行き、よければそこで飲むことにした。店からOKが出たのでグラスと氷と水を用意してもらい、フカヒレセットメニューを二人分と特大フカヒレ二皿を注文し待つことにする。特大フカヒレの大皿が運ばれてきて、みんなで写真を写し、二人のウェイトレスさんに分けてもらい、夕食の始まりです。食べながら、今後この会をどうするかなど色々しゃべりながら2時間ぐらいの時間は流れてゆき、食事は無事終わり、ホテルまで歩いて戻り、部屋でシャワーを浴びて、夜8時に迎えのバスが来てチェックアウトです。大変お世話になったガイド・キティーさんに別れの握手をして、またガンバッテ近いうちにまた来るようにしますと話し、夜の街バンコクを後にしてタイ国際空港へ。

でもやっぱり来て良かった。熱気と微笑みに包まれた神秘の国へ、また私も何事もなかったかのように、またあの地へと足を運ぶのだろうと思う。

伊藤哲夫ほか　2014年11月6日～10日（訳　組長）

ゲージツくん　by モリシタ

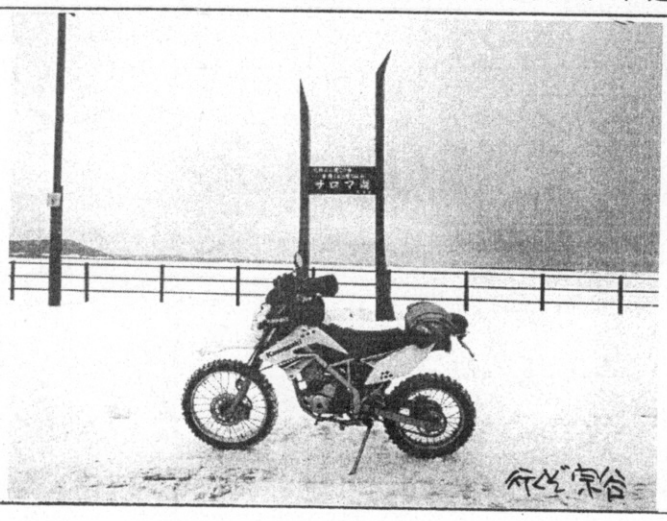
厳冬の、耐えるしばれる北海道　2012Ver その3（突然ですが連載再開）

オホーツクへ…

屈斜路湖畔の道道からさらに小清水峠への道道で北上する。峠道の途中からは霧で視界最悪。ほとんどホワイトアウト状態であった。何とか峠を越え、女満別方面へショートカット出来そうな分岐で停まって地図を確認していると、営業車風のバンに乗った人が降りてきて話しかけてきた。「いいスパイク履いてるね！」。やっぱり北海道人にも物好きが居る様である。ついでに道を問うと、「その道道は冬季閉鎖で行けないよ」。「有り難う御座いました」と別れた。　女満別湖で小休止してR238へ。とうとうやってきましたオホーツク海！道の駅サロマ湖で昼食。上陸後、東に進路をとった時点で最北端は無理だと思っていたが、R238を北上しているとどうしても宗谷岬が頭にちらついてしまう。しかし日程的に微妙であり、気象条件や路面状況を考えると無理は出来ない。とりあえず今日は紋別を目指す事にした。市街に入り買出し。海沿いを重点に野宿地を探すが、今ひとつしっくりくる場所が見つからない。幾つか候補地を見つけるものの、何処もオホーツクからの強風が吹きさらしだ。買出しは終えたものの、今日はビジネスホテル泊に決めた。チェックイン後シャワーを浴びて近くの居酒屋へ。大ホッケ焼きを注文したのだが、何故か自分の食べ方が綺麗に映った様で、店の御主人に感心されてしまった。本日の走行233km。

いざ、宗谷へ…

雪こそ降っていないが、どんよりとした朝を迎えた。宗谷に向かう決心はまだ固まらない。日程的にあと2泊でバイクを輸送業者に預けた後、札幌に予約してある宿まで辿り着かなければならない。宗谷までは約180km、悩む。内陸に入るのなら、この紋別が岐路になる。しかし今朝はホテル泊まりで出発に手間取らない。これってやっぱり「行け！」という事？。よし、宗谷を目指そう！。そうと決まれば行動は早い。8時にスタートして40km／h平均で走れれば4時間半。何とか昼過ぎに着ければ、日が傾くまで少なくともあと100kmは移動できると踏んだ。予定通り8時、R238を北に向けて、ゆっくりとクラッチを繋ぐ。R238をを走っていると、白い大地とグレーの空、鉛色の海が視界の全てだ。寒々しい無彩色だけの中を、青看板の距離が縮まる事だけを考えて走りに走った。頭の中では、今のペースで行ったら何時に到着するかの計算も同時進行。路面状況、極めて良好。



（つづく）

記　アベ

編集後記

ゴミ箱■このクソ暑い夏休みの真只中。お集まりの暇なろろに感謝申上げます。今号は今までにたまった原稿の活用にあてたいと思いまして……。モリシタ■なぬっパクリンピックの話のろが面白かったって。なぬっゲタが来ているって。地下鉄■組長はまだ死んでません。オガタ■手造りマッキョウの酢漬け持ってきました。組長の頭に効くかなあ？